

ラオス小児医療プロジェクト

活動団体／認定 NPO 法人 世界の医療団

2014 - 2015 第 1 期



2012年10月より現地保健当局との連携のもと、5歳未満児とその家族を対象にした小児医療プロジェクトを開始。

1年目は、対象医療施設の水道設備の設置改善、小児科医療器具の充実。抵抗力の弱い子どもにとっては重要な感染症予防対策を進め、医療スタッフ本格育成に向けた準備を整えました。加えて、子どもの養育に関連した健康トピックを伝える紙芝居型教材の製作に着手し、各村から選ばれた村落健康普及員への教育を開始しました。村落健康普及員は、村民への意識啓発・知識普及を進める重要な役割を担います。

2013年は、対象地域すべての5歳未満児の医療サービスがほぼ無料になる医療費減免政策の運用を開始。村民への情報提供を並行して進めた結果、診察のために病院や保健センターを訪れる家族が増えました。村民の経済的負担を軽減することで、格差なく子どもたちが医療サービスにアクセスできる環境が整いました。

しかし、医療サービスを無料化しただけでは住民がサービスを利用し続けてくれるとは限りません。住民にいざという時に医療機関を頼ってもらうには、満足できる医療サービスが提供されることと、家庭への予防意識・疾病知識の普及のバランスが取れることが必要です。住民の意識が健康に向き始めた今、住民の受け皿となる医療施設では、より住民のニーズに合い、信頼に足る医療を提供する必要があります。

写真：上／ラオスの子どもたちに手洗いの習慣を 下／早川小児科医の指導を受け、木田看護師をモデルに喉の診察を練習する現場スタッフ。子どもには笑顔で接します。



ミッション名称	ラオス小児医療プロジェクト 第1期
活動時期	2012年10月(当社支援2014年1月)～2015年12月
地域	ラオス チャンパサック県スクマ郡・ムンラパモク郡
目的	● 医療施設のスタッフ育成による小児医療基盤の構築 ● 村落健康普及啓発を通じた、住民による医療サービス利用促進 ● 診療および治療の無償化政策導入支援による貧困が原因の未受診削減 ● 医療保健政策持続性担保のための県保健省・郡保健省・村長らとの継続的対話
活動内容	① 保健医療人材の育成 ② 村落への啓発活動 ③ 5歳未満児医療費減免 ④ 医療基盤整備

活動の成果



5歳未満児の外来受診件数は2郡平均で、2014年実績では介入前2012年の4倍近くに上がりました。2015年は11月末時点で2014年実績を上回ることができました。

医療費が減免されることは大人が子どもを受診させる動機にはなりますが、医療施設で受けるサービスに満足できなければ、再び医療施設の利用者は減少することが予想されます。従って、大人が医療施設を利用する意義を理解しただけではなく、受けるサービスにもある程度の満足が得られているというのを裏付けています。

サービスの質向上のための医療スタッフに対する研修では、最終年度は各施設を巡回し、日々の実践環境で実践観察とフィードバックをし、またロール

プレイを積極的に採用しインタラクティブな現場研修になりました。チャンパサック県病院の小児科医と共同で研修を企画・実施したため、研修の機会が少ない現場スタッフにとっては、今後につながる県病院との関係構築の機会にもなったと思われます。

村落における健康教育活動に関しては、村落健康普及員の活動意義と継続の仕組みについて保健当局と根気強く協議してきた結果、本事業終了後も県保健局主導でこの仕組みを維持強化していきたいとの意向を聞くことができました。今後も地域による自主的な活動が継続されていくことに期待します。

写真: 上／住民の身近な医療を受ける拠点となるヘルスセンターで、子どもの健康診断を実施。呼びかけに多くの子ども達が集まりました。下／村落健康普及員が主催した「村落健康教育集会」の様子

